

目次

- 目次 2
- はじめに 3
 - ◆ 横浜みどりアップ計画とその背景
 - ◆ ウェルカムセンター事業とは
- 第1章 舞岡ふるさと村・ふるさとの森の歩き方と楽しみ方 4
 - ◆ 舞岡ふるさと村はこんなところ ◆ 「虹の家」にお立ち寄りください
 - ◆ 歩くときのルールとマナー ◆ 注意すべき生物と自然
- 第2章 舞岡の春の植物 (3~5月ごろ) 6
 - ◆ 舞岡ふるさとの森の春に咲く植物
 - ◆ 春の小川アメニティや農地に咲く植物
 - ◆ 春の舞岡八幡宮でひっそり咲く植物
- 第3章 舞岡の夏の植物 (6~8月ごろ) 10
 - ◆ 舞岡ふるさとの森の夏に咲く植物
 - ◆ 舞岡はシダやコケの宝庫
 - ◆ 夏に繁茂するつる植物 <つる植物のタイプ>
 - ◆ 夏の小川アメニティや農地に咲く植物 <似たもの同士>
- 第4章 舞岡の秋から冬の植物 (9~2月ごろ) 14
 - ◆ 舞岡の秋に咲く植物
 - ◆ 舞岡の冬に咲く植物 <春を待つ植物>
 - ◆ 虹の家に咲く園芸植物
- 第5章 舞岡の木の実・草の実 18
 - ◆ 舞岡の木の実・草の実 <花と果実> <タネはどのように運ばれるか>
- 第6章 舞岡の農作物の花 20
 - ◆ 穀類・豆類・果菜類・果樹類の花 ◆ 葉菜類の花 ◆ 根菜類の花
- 第7章 舞岡の昆虫 22
 - ◆ チョウの仲間 ◆ カマキリの仲間 ◆ バッタの仲間 ◆ カメムシの仲間
 - ◆ トンボの仲間 ◆ ハチの仲間 ◆ 甲虫の仲間
- 第8章 舞岡のクモと自然 (クモのいる環境とクモ) 26
- 第9章 舞岡ふるさと村の四季 (農作業と生物の関係カレンダー) 28
- 第10章 虹の家はこんなところ 30
 - ◆ 農体験イベントに参加しましょう ◆ 教室や散策会に参加しましょう
 - ◆ 研修室や展示ホールは貸し出しています ◆ お気軽にご来館ください
- 裏表紙 舞岡ふるさと村マップ 32

凡例

| | | | | |
|---------------------------------|--|----------------|---------------|--|
| 草か木の区分 (6~12, 14~16, 18~19P) | つる植物の区分 (主に11P) | シダとコケの区分 (13P) | 園芸植物の区分 (17P) | タネの散布の区分 (主に19P) |
| ● 草本 ● 木本 | ◆ 茎が他に巻き付く ◆ 巻きひげが他からみつく ◆ 吸盤や気根 ◆ トゲや毛があり他にもたれかかったりからむ | ★ シダ類 ★ コケ類 | ● 草花 ● 花木 | ■ 風で運ばれるタネ ■ 小動物が食べて運ばれるタネ ■ 落下して散布するタネ ■ はじけて飛ぶタネ ■ 獣や人にくっついて運ばれるタネ |

はじめに

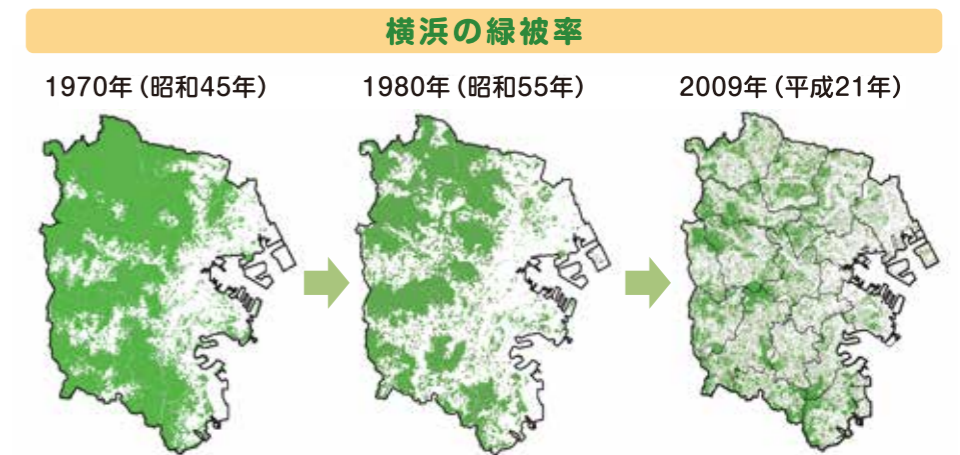
横浜みどりアップ計画とその背景



緑には、防災・保水機能をはじめ、生物多様性の保全、ヒートアイランド現象の緩和、美しい街をつくる景観形成機能など多様な機能があり、私たちの暮らしを支えています。しかし、1970年からの約40年間で、横浜市は市域面積のおよそ20%の緑が減少しました。そこで、緑の減少に歯止めをかけ、緑豊かな環境を次世代に引き継いでいくために、「横浜みどり税」を財源の一部に活用し緑を保全する重点的取り組みとして、平成21年度から「横浜みどりアップ計画」を進めています。

横浜みどりアップ計画の実施により市内の緑の減少傾向は鈍化していますが、保全すべき緑はまだ多く残っています。この緑の環境を残していくには、継続的に、市民や事業者の皆様と連携して、保全創出した緑を良好に育む取組や市民と緑のかかわりを深める取組を、さらに進めていく必要があります。

今後も生物多様性の保全や、農体験の場など市民が緑にふれる場づくり、街の緑の魅力づくりなど、緑の質の充実を進めていきます。



ウェルカムセンター事業とは

緑を保全するためには、森に関わる方々を増やすことが大切です。森に関わるきっかけを提供することで興味を持ち、その大切さを知っていただくことが必要です。そこで、市内5か所のウェルカムセンターでは森の生き物情報発信や自然体験行事、環境学習の機会の提供などを実施し、森に関わるきっかけづくりを行っています。

舞岡ふるさと村「虹の家」は、平成26年4月からウェルカムセンターとしても業務を開始し、自然や生き物の情報発信や自然観察系の教室を充実させて普及啓発に取り組んでいます。



秋の虫観察会の様子

本書の使い方

このガイドブックは、舞岡ふるさと村及び舞岡ふるさとの森(市民の森)や自然により親しんでいただけるよう、当ふるさと村で見られる代表的な植物や、昆虫、クモなどをとりまとめ、主に写真によりご紹介しました。散策するときの一助としていただければ幸いです。

また、本書は横浜市環境創造局及び舞岡ふるさと村「虹の家」のホームページからダウンロードし、必要な箇所だけ印刷してお使いいただけます。本書を使用して普及活動等を行う場合は、出典を明記してください。

本書の植物の科名は、国際標準の新分類体系「APGⅢ」に準拠しています。





舞岡ふるさと村・舞岡ふるさとの森の 歩き方と楽しみ方

舞岡ふるさと村は、市営地下鉄で横浜からおよそ30分。舞岡駅を出ると、里山の懐かしい風景が広がります。春にはウグイスの鳴き声が出迎え、雨が降りそうな日はアマガエルが鳴いて教えてくれます。夏は虫捕りやザリガニ釣りをする子供たちがあちらこちらに。土日の朝は地域の農産物を買求める市民で溢れます。

都会の中のそんな自然豊かな田舎が、舞岡ふるさと村です。のんびり市民の森を散策か、農産物を買求めるか、舞岡八幡宮にお参りか、…歩き方は人それぞれ違います。

舞岡ふるさと村はこんなところ

舞岡駅前には、舞岡ふるさと村全体の案内版があります。まずは、この案内板で地区全体を把握し、目的の散策ルートを確認しましょう。

舞岡ふるさと村は約103ヘクタールの区域に約35ヘクタールの農地、約25ヘクタールの樹林地が残る農業地帯です。小川アメニティに沿って、川筋に歩けば、のどかな田園景観を楽しむことができます。駅から南に向かって右側（西側）の樹林地のある区域は、舞岡ふるさとの森（市民の森）として散策路が整備され、市民の気軽なハイキングコースとなっています。

また、駅前にあるJA横浜ハマっ子直売所の「舞岡や」、その隣にある「ハム工房まいおか」には、地場産の新鮮な農畜産物が売られています。



●舞岡駅前の案内板



●舞岡ふるさと村の農村風景

「虹の家」にお立ち寄りください

舞岡ふるさと村は、訪れる市民が自然や農業、農村文化に親しみながら理解を深めていただけるよう、収穫体験や季節ごとの農産物直売まつりなどを通じて、市民と農村の交流も積極的に行っています。

「虹の家」は、舞岡ふるさと村の総合案内所として平成9年5月に開館しました。

自然や農業・農村文化を展示で紹介するほか、展示ホールでは写真展などを開催しています。また、年間を通して地場産農畜産物を使った料理教室やそば打ち教室、パン作り教室、昆虫や植物の自然観察会やふるさとの森散策会など、様々な教室も行っています。

散策の途中でふらりと立ち寄る方や、自然や生き物の情報を知りたい方などで賑わいます。虹の家は、地下鉄舞岡駅から小川アメニティに沿って南へ徒歩約5分です。（30～31ページ参照）



●舞岡ふるさとの森散策路



●虹の家の正面玄関

歩くときのルールとマナー

舞岡ふるさとの森を散策したり、その周辺の農地の景観を歩いて楽しむときは、予めその地区の地形や天候などを調べ、ルールやマナーを守って歩きましょう。

特に、樹林地も農地も必ず土地所有者がいます。散策路外の樹林地や農地には立ち入らないでください。

ルールとマナー



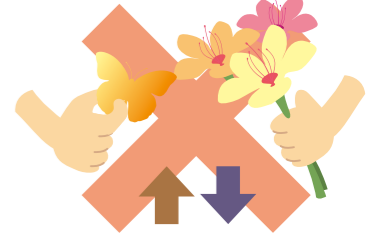
●ポイ捨て禁止。ゴミは持ち帰り



●ふるさとの森は火気厳禁



●トイレを利用



●動植物の持出や持込の禁止



●樹林地や畑に入らない



●人に迷惑をかける行為禁止



●事前に地図や交通を調べる



●水分の補給

注意すべき生物と自然

自然の中を歩くときは、地形や天候に注意し、ケガなどをしてしないよう下準備をしておきましょう。また、生き物の中には、人に害を及ぼすものがありますので注意が必要です。



ヤマカガシ
→奥の牙に毒
(かまれたらすぐ病院へ)



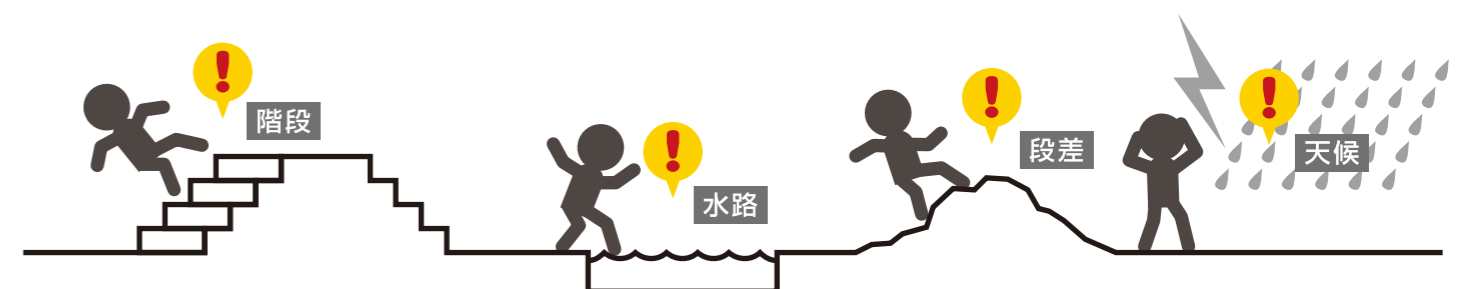
オオスズメバチ
→あわてない、刺激しない
(さされたらすぐ病院へ)



チャドクガ
→さわると皮膚のかぶれや湿疹
(必要に応じて病院へ)



ウルシやハゼ
→さわるとかぶれる
(必要に応じて病院へ)





舞岡の春の植物 (3~5月ごろ)



舞岡ふるさとの森散策路

舞岡ふるさとの森の春に咲く植物

舞岡ふるさと村の中にある市民の森「舞岡ふるさとの森」は、昔からの自然が残っています。春にはキブシやヤマザクラの花、クヌギやコナラの新芽が山を彩り、樹林の下にはタチツボスミレやホタルカズラなどの草花が一斉に咲き始めます。

特に散策路に沿った林縁部や、農地と樹林地の間には、多くの種類の植物が見られます。



●カントウタンポポ (キク科)



●ヒメカンスゲ (カヤツリグサ科)



●キブシ (キブシ科、雌花)



●キランソウ (シソ科)



●モミジイチゴ (バラ科)



●アオキ (ガリア科、雄花)



●ウシハコベ (ナデシコ科)



●カキドオシ (シソ科)



●◆サルトリイバラ (サルトリイバラ科)



●ハハコグサ (キク科)



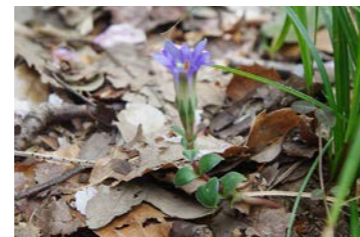
●オオジシバリ (キク科)



●ムラサキケマン (ケシ科)



●タチツボスミレ (スミレ科)



●フデリンドウ (リンドウ科)



●オオイヌノフグリ (オオバコ科)



●シヨカツサイ (アブラナ科)



●セリハビエンソウ (キンポウゲ科)



●◆カラスノエンドウ (マメ科)



横浜みどりアップ 葉っぱ



●ホタルカズラ (ムラサキ科)



●◆スイカズラ (スイカズラ科)



●オニタビラコ (キク科)



●エゴノキ (エゴノキ科)



●ヒメコウゾ (クワ科)



●ササバギンラン (ラン科)



●◆ヤエムグラ (アカネ科)



●オオバコ (オオバコ科)



●オニノゲシ (キク科)



●オカタツナミソウ (シソ科)



●キツネアザミ (キク科)



●オヤブジラミ (セリ科)



●■ヘビイチゴ (バラ科、実)



●◆アズマイバラ (バラ科)



●◆テイカカズラ (キョウチクトウ科)



●ウツギ (アジサイ科)



●マルバウツギ (アジサイ科)

春の小川アメニティや農地に咲く植物

春が訪れると、農地や小川アメニティでも様々な植物が花を咲かせます。舞岡ふるさとの森と比べ、帰化植物や水辺の植物などがぐっと多くなります。



舞岡ふるさと村の田んぼ



小川アメニティ



●スズメノテッポウ (イネ科)



●クサヨシ (イネ科)



●ヒメオドリコソウ (シソ科)



●ホトケノザ (シソ科)



●ケキツネノボタン (キンポウゲ科)



●タガラシ (キンポウゲ科)



●ヒエガエリ (イネ科)



●カモジグサ (イネ科)



●ハルジオン (キク科)



●トウダイグサ (トウダイグサ科)



●アメリカフウロ (フウロソウ科)



●コマツヨイグサ (アカバナ科)



●コメツブツメクサ (マメ科)



●ムラサキツメクサ (マメ科)



●ユウゲショウ (アカバナ科)



●ヒルザキツキミソウ (アカバナ科)



●イヌガラシ (アブラナ科)



●ニワゼキショウ (アヤメ科)



●キシウブ (アヤメ科)



●ユキノシタ (ユキノシタ科)



●ナガバオモダカ (オモダカ科)



●クレソン (アブラナ科)



●エゾノギシギシ (タデ科)

春の舞岡八幡宮でひっそり咲く植物

舞岡には、鎌倉時代から続く舞岡八幡宮があります。毎年4月15日は例祭があり、「湯花神楽」の神事が継承されています。

静かな鎮守の森には、イチヨウやスギ、クスノキ、シラカシなどが見られます。その林縁には、ホウチャクソウやウラシマソウなど比較の日陰を好む草花がひっそりと咲いています。神社の階段を上り、神聖な気持ちになれる場所で出会う草花は一層可憐です。



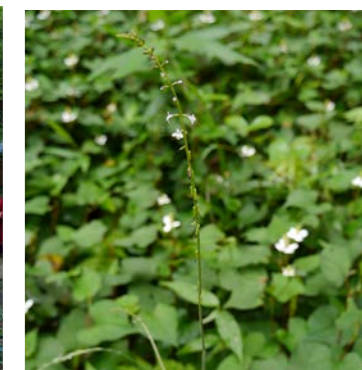
●ウラシマソウ (サトイモ科)



舞岡八幡宮



舞岡八幡宮例祭



●ナガバハエドクソウ (ハエドクソウ科)



●ヒメウス (キンポウゲ科)



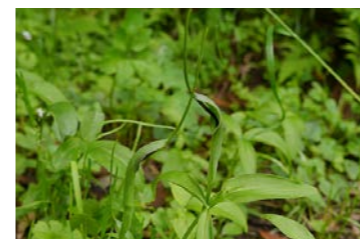
●ハナイバナ (ムラサキ科)



●ツルカノコソウ (スイカズラ科)



●ツボスミレ (スミレ科)



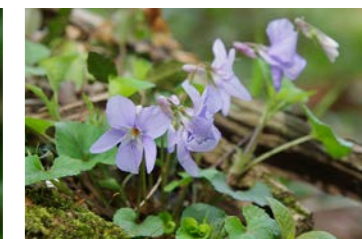
●カラスビシャク (サトイモ科)



●ホウチャクソウ (イヌサフラン科)



●ドクダミ (ドクダミ科)



●タチツボスミレ (スミレ科)



舞岡の夏の植物 (6~8月ころ)



舞岡ふるさとの森散策路

舞岡ふるさとの森の夏に咲く植物

舞岡ふるさとの森は、コナラやヤマザクラなどの落葉樹を中心^{らくようじゆ}に、シラカシやアオキなどの常緑樹^{じょうりよくじゆ}が混じり、植生は多様です。舞岡では、たけのこ掘りなどの体験農業が盛んで、夏はモウソウチクの葉が抜け替わり竹林が美しく、七夕を迎えます。

暑い日は、水分を補給しながら散策路をゆっくり歩き、セミや野鳥の声を聴きながら、四阿^{あひまや}のベンチでひと休み。オカトラノオやミズタマソウなど、さわやかな草花とも出会えます。



●ムラサキシキブ (シソ科)



●オカトラノオ (サクラソウ科)



●ムラサキニガナ (キク科)



●タケニグサ (ケシ科)



●◆ヒヨドリジョウゴ (ナス科)



●トキワハゼ (サギゴケ科)



●アキノタムラソウ (シソ科)



●ヨウシュヤマゴボウ (ヤマゴボウ科)



●ハキダメギク (キク科)



●ホタルブクロ (キキョウ科)



●アカメガシワ (トウダイグサ科)



●ミズタマソウ (アカバナ科)



●タシロラン (ラン科)



●トバナ (シソ科)



●アカメガシワ (トウダイグサ科)



●ミズヒキ (タデ科)



●ツクサ (ツクサ科)



●キツネノマゴ (キツネノマゴ科)



●キクイモ (キク科)



●メマツヨイグサ (アカバナ科)



●ノアザミ (キク科)



●ヘニバナボロギク (キク科)



●ツリガネニンジン (キキョウ科)



●クサギ (シソ科)

舞岡はシダやコケの宝庫

舞岡は全体が複雑な谷戸地形のため、豊かな小川の水系や自然が、多くのコケやシダ植物を育てています。

コケやシダ植物は、胞子^{ほうし}で殖えるため湿気のある穏やかな気候や場所を好みます。シダを見つけた時は葉の裏もよく見てください。胞子を出す「胞子のう」の形や色、並び方が、種類でそれぞれ違います。



シケシダとアマガエル



★◆カニクサ (カニクサ科)



★ホシダ (ヒメシダ科)



★ベニシダ (オシダ科) 胞子葉の裏



★ノキシノブ (ウラボシ科)



★ゲジゲジシダ (ヒメシダ科)



★イワガネソウ (イノモトソウ科)



★スギナ【ツクシ】 (トクサ科)



★オオハナワラビ (ハナヤスリ科)



★ミドリヒメワラビ (ヒメシダ科)



★シケシダ (メシダ科)



★コホウオウゴケ (ホウオウゴケ科)

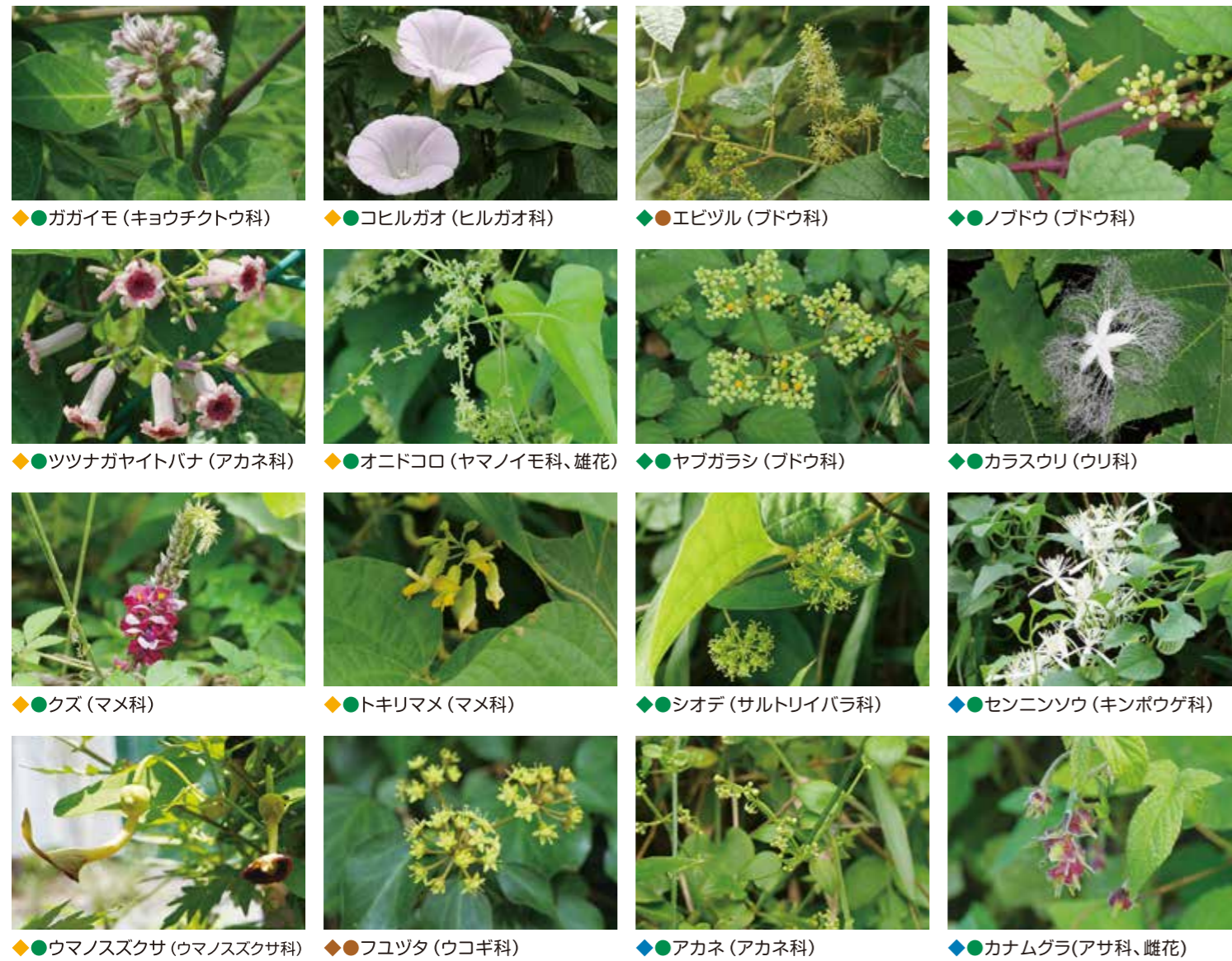


★ジャゴケ (ジャゴケ科)

夏に繁茂するつる植物

夏には、多くのつる植物が繁茂します。

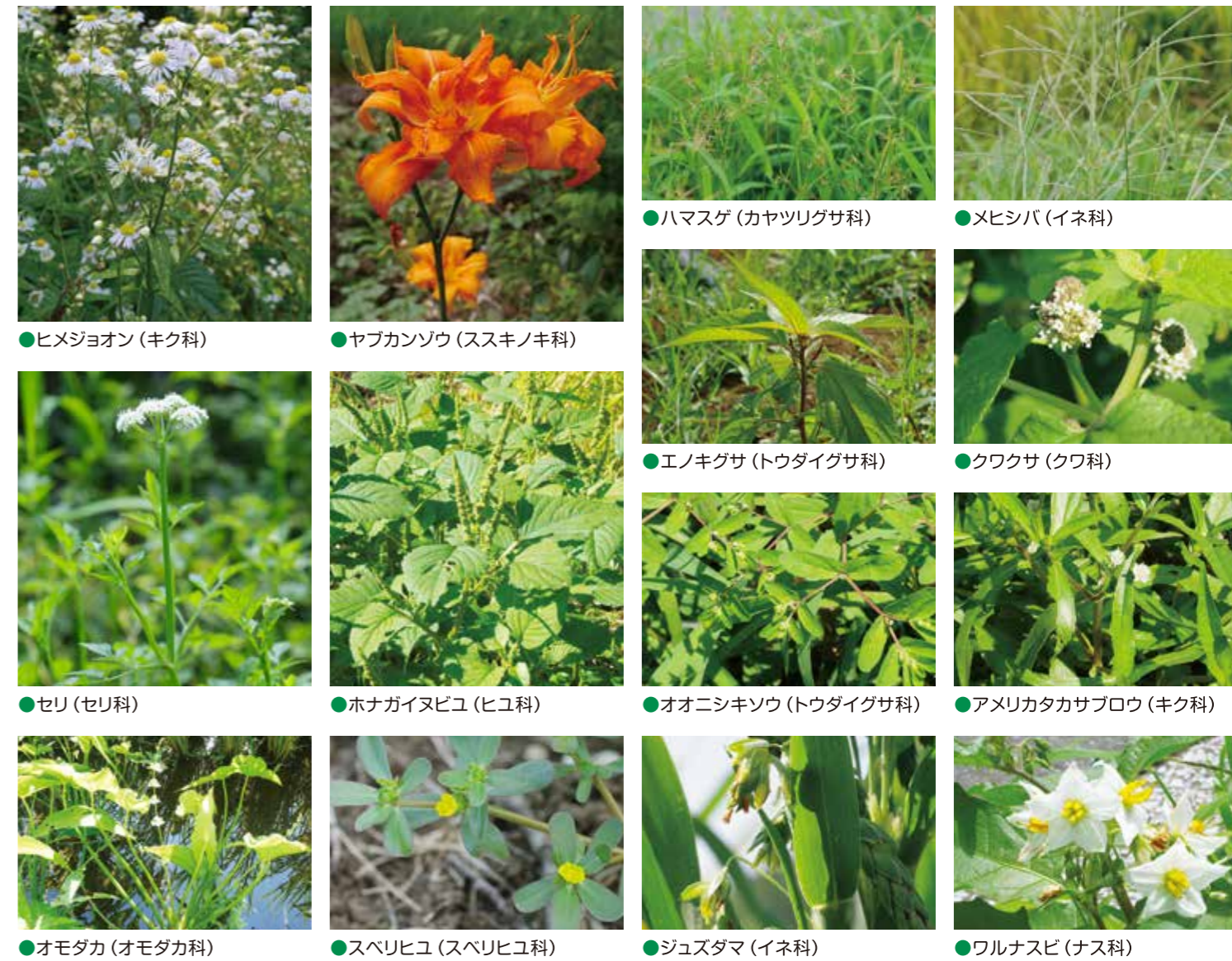
つる植物は他の植物にもたれかかったり、巻き付いたり、からんだり、茎を自立させるエネルギーを必要としないため、成長は比較的早いものが多いです。



夏の小川アメニティや農地に咲く植物

小川アメニティや農地にも、夏は多くの植物が繁茂します。

帰化植物が多いのが特徴ですが、水気の多い場所にはセリやオモダカのように、日本古来の植物が見られます。



コラム つる植物のタイプ

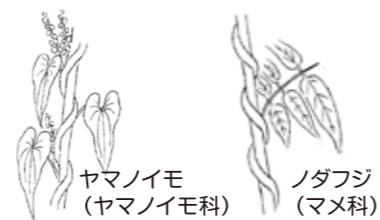
◆ 他物にもたれかかったり、からんだり (多くは葉や茎にトゲや毛がある)

ヒヨドリジョウゴ、ヤエムグラ、アカネ、アズマノイバラなど



◆ 茎が他に巻いていく

コヒルガオ、ガガイモ、スイカズラ、クズ、ヘクソカズラ、トキリマメ、ヤブマメなど



◆ 巻きひげが他にからみつく

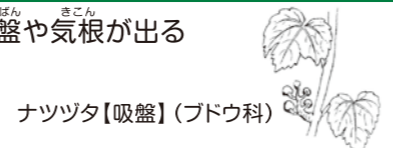
ノブドウ、カラスウリ、サルトリイバラ、ヤブガラシ、エビヅルなど

カラスノエンドウ (マメ科)



◆ 根やタコのような吸盤や気根が出る

フユツタ (気根)、テイカカズラなど



コラム 似たもの同士

■ ウシハコベとコハコベ (ナデシコ科)



■ ハルジオンとヒメジョオン (キク科) つぼみ・茎・葉の比較





舞岡の秋から冬の植物(9~2月ころ)



ススキが咲く風景

舞岡の秋に咲く植物

舞岡の秋は、9月のヤマホトギスやヒガンバナから始まり、多くの草花でにぎわいます。

花が咲いた後にはやがて果実がつき、舞岡ふるさとの森の散策路にも、葉が赤や黄に色づき始めた木々が目立ち始めます。秋の草花はイヌタデやゲンノショウコ、ツルボなど派手さはありませんが、よく見ると可愛く、自己主張もあります。

また、秋はヒメアシボソやノガリヤス、チヂミザサなどイネ科の植物が多く、花の色があまり目立たないため、よく見ないとその違いは分かりません。



● ツルボ (キジカクシ科)



● ゲンノショウコ (フウロソウ科)



● シマスズメノヒエ (イネ科)



● アキノエノコログサ (イネ科)



● イヌタデ (タデ科)



● シロバナサクラタデ (タデ科)



● ノガリヤス (イネ科)



● チカラシバ (イネ科)



● ハナタデ (タデ科)



● チョウジタデ (アカバナ科)



● カゼクサ (イネ科)



● ヒメアシボソ (イネ科)



● ヒナタイノコツチ (ヒユ科)



● ◆ ヤブマメ (マメ科)



● ◆ ヌスピハギ (マメ科)



● チヂミザサ (イネ科)



● ヒヨドリバナ (キク科)



● セイタカアワダチソウ (キク科)



● マルバルコウソウ (ヒルガオ科)



● ヒガンバナ (ヒガンバナ科)



● ナキリスゲ (カヤツリグサ科)



● ヤツデ (ウコギ科)



● ヤマホトギス (ユリ科)



● ツルグミ (グミ科)



● ミソソバ (タデ科)



● ホソバアキノノゲシ (キク科)



● ヒメムカシヨモギ (キク科)



● アオミズ (イラクサ科)



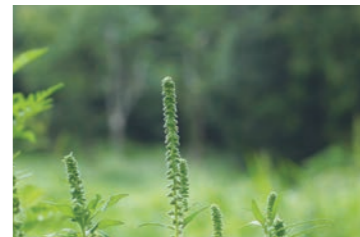
● ナンバンカラムシ (イラクサ科)



● シロヨメナ (キク科)



● カントウヨメナ (キク科)



● イボクサ (ツククサ科)



● アメリカセンダングサ (キク科)



● コシロノセンダングサ (キク科)



● ブタクサ (キク科)



● オオブタクサ (キク科)

舞岡の冬に咲く植物

寒い冬の間は、舞岡の木々も冬芽でじっと耐えています。冬を越す草花は、地面にへばりついたり、葉を落として小さな株となったり、様々なかたちで冬を乗り切ります。

しかし、真冬でも樹林地にはヤブツバキが咲き、日当たりのよい斜面ではやがてヤマザクラやキブシの芽が膨らんでいきます。日だまりの畑や田んぼのあぜなどには、一足早く春咲きの草花たちが花をのぞかせます。



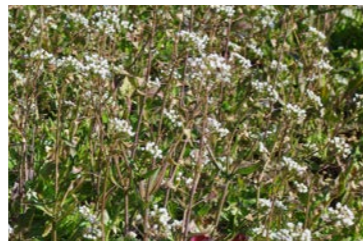
●スズメノテッポウ (イネ科) **舞岡の冬 (霜の降りた田んぼ)**



●ヤブツバキ (ツバキ科)



●コハコベ (ナデシコ科)



●ナズナ (アブラナ科)



●タネツケバナ (アブラナ科)



●オオイヌノフグリ (オオバコ科)



●スズメノカタビラ (イネ科)



●ホトケノザ (シソ科)



●ヒメオドリコソウ (シソ科)

コラム 春を待つ植物

● 樹木は冬芽で春を待ちます。

ムラサキシキブ
シソ科



コナラ
ブナ科



アカメガシワ
トウダイグサ科



クヌギ
ブナ科



カラスザンショウ
ミカン科



コウヤボウキ
キク科



● 越年草や多年草はロゼットで冬を越します。
(1年草はタネで冬を越します)



ジシバリ (キク科)



オニノゲシ (キク科)



ハハコグサ (キク科)



ノゲシ (キク科)

虹の家に咲く園芸植物

植物名は一般名で記載しています

舞岡ふるさと村ガイドブック

虹の家の敷地内の緑地には、魅力アップを図るため、草花や花木を植栽し、四季折々に咲く花で来館者の目を楽しませています。そして、咲く花の色や香りなどによって、私たちは安らぎや季節感を感じています。



●クリスマスローズ (キンポウゲ科)



●ギボウシ「トクダマ」 (キジカクシ科)



●アガパンサス (ヒガンバナ科)



●シラン (ラン科)



●ハナニラ (ヒガンバナ科)



●シキザキベゴニア (シュウカイドウ科)



●ツワブキ (キク科)



●アセビ (ツツジ科)



●ソシンロウバイ (ロウバイ科)



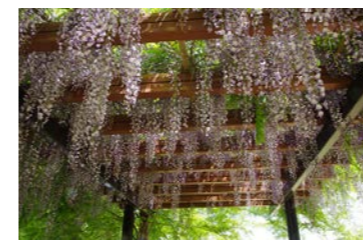
●トサミズキ (マンサク科)



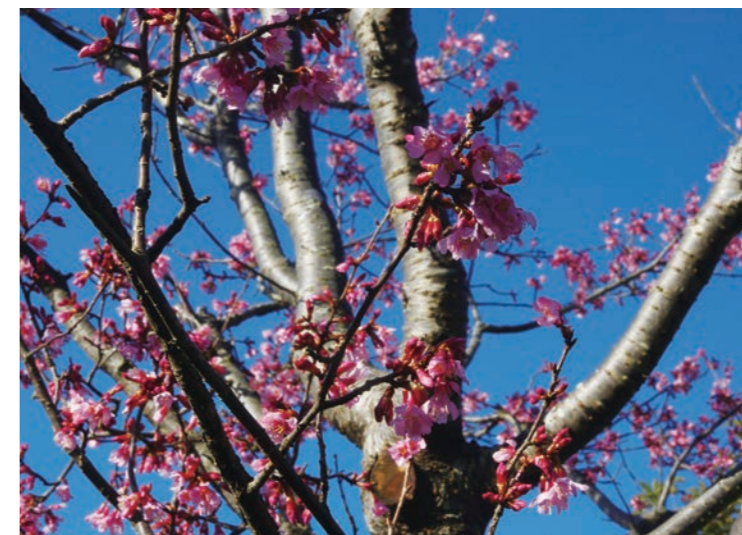
●ミツバツツジ (ツツジ科)



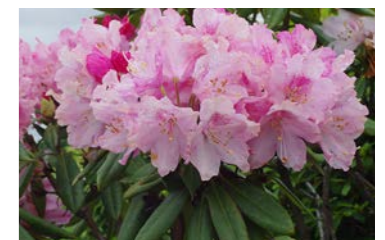
●ヤマボウシ (ミズキ科)



●フジ (マメ科)



●オカメザクラ (バラ科)



●シャクナゲ (ツツジ科)



●ハマナス (バラ科)



●カマツカ (バラ科)



●ブッドレア (ゴマノハグサ科)



●アジサイ (アジサイ科)



●ネムノキ (マメ科)



●カンツバキ (ツバキ科)



舞岡の木の实・草の实

舞岡の木の实・草の实

花が咲くとやがて様々な木の实や草の实が熟し、赤や黄、紫、黒などのいろどりを添えます。

タネが風で運ばれるものは翼が生えたり綿毛をつけたりします。鳥や小動物が食べてタネが運ばれるものは、赤や紫に色づいたり甘くなったりします。果実がはじけて中のタネが飛んだり小動物にくっついて運ばれるものは、じっとそのチャンスを待っています。

秋に舞岡ふるさとの森を歩いて、いろいろな木の实や草の实を観察してみましょう。



トキリマメ (マメ科)



カラスノエンドウ (マメ科)



コナラ (ブナ科)



ヒヨドリジョウゴ (ナス科)



ヤマグワ (クワ科)



ゲンノショウコ (フウロソウ科)



カタバミ (カタバミ科)



ヤブヘビイチゴ (バラ科)



エビヅル (ブドウ科)



オヤブジラミ (セリ科)



オニドコロ (ヤマノイモ科)



ムラサキニガナ (キク科)



ヨウシュヤマゴボウ (ヤマゴボウ科)



ミスタマソウ (アカバナ科)



コシロノセンダングサ (キク科)



ガガイモ (キョウチクトウ科)

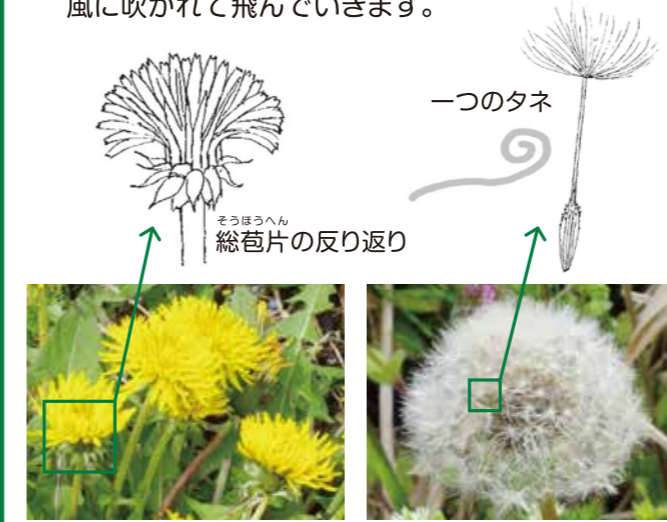


アオキ (ガリア科、雌株)

花と果実

セイヨウタンポポの花と実 (キク科)

セイヨウタンポポは、日当たりがよい場所で年中花が咲き、実を付けます。タネには綿毛がついていて風に吹かれて飛んでいきます。



ヘクソカズラの花と実 (アカネ科)

花の後には、臭気のある実がなります。



タネではないムカゴータネでもないのに膨らみ、芽がでます。

ヤマノイモ (ヤマノイモ科)



タネはどのように運ばれるか ~タネの散布のタイプ~

風で運ばれるタネ (タネに綿毛や翼がつく)

ベニバナボロギク、セイヨウタンポポ、ムラサキニガナ、テイカカズラなど

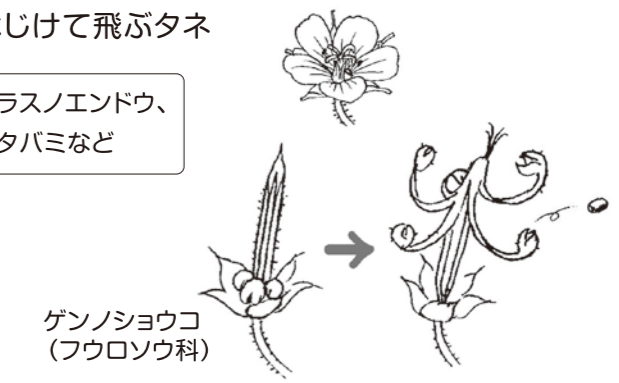


落下して散布するタネ

クヌギ、シラカシ、ツバキなど

はじけて飛ぶタネ

カラスノエンドウ、カタバミなど



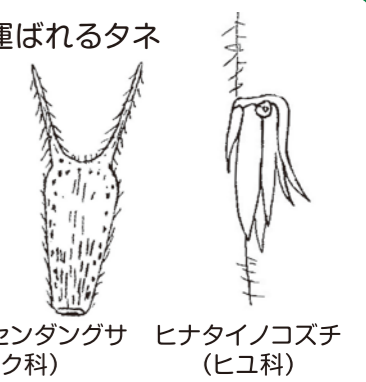
小動物が食べて運ばれるタネ

ガズミ、ヘビイチゴ、ヤマグワ、ウウミスザクラ、エビヅル、ヨウシュヤマゴボウ、ヒヨドリジョウゴ、アオキなど



獣や人にくっついて運ばれるタネ

ミスタマソウ、コシロノセンダングサ、ヌスビトハギ、チヂミザサ、チカラシバなど



舞岡の農作物の花

舞岡の田んぼや畑では、多くの種類の農作物が栽培されています。農作物の種類により、栽培に適した時期があり、このため花の咲く季節も異なります。田畑の近くを散策するときには、ふだん見かけることの少ない、農作物の花も探してみてもいいかもしれません。

穀類・豆類・果菜類・果樹類の花

いずれも実を食べる農作物なので、花が咲かなければ実はなりません。花の咲く時期が短いものもあれば、次々と花を咲かせながら実をつけていくものもあります。



イネ (イネ科)



コムギ (イネ科)



トウモロコシ (イネ科、雄花)



トウモロコシ (イネ科、雌花)



エダマメ (マメ科)



インゲン (マメ科)



エンドウ (マメ科)



ラッカセイ (マメ科)



ソラマメ (マメ科)



ナス (ナス科)



トマト (ナス科)



ピーマン (ナス科)



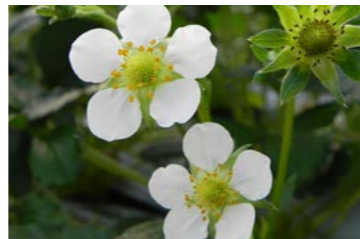
カボチャ (ウリ科、雄花)



キュウリ (ウリ科、雌花)



オクラ (アオイ科)



イチゴ (バラ科)



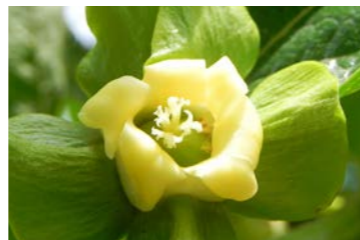
ナシ (バラ科)



ウメ (バラ科)



ウンシュウミカン (ミカン科)



カキ (カキノキ科、雌花)

葉菜類の花

葉や茎を食べる野菜を葉菜類といいます。普通なら、花が咲く前に収穫してしまうので、花を見ることはできません。取り残した株が大きく育ち、しかも花になる組織が作られ、つぼみの付いた茎が伸びて、温度や日の長さなどの条件がうまく重なると花は咲きません。



キャベツ (アブラナ科)



コマツナ (アブラナ科)



ハクサイ (アブラナ科)



ブロッコリー (アブラナ科)



ネギ (ヒガンバナ科)



タマネギ (ヒガンバナ科)



レタス (キク科)



シュンギク (キク科)

根菜類の花

根や地下茎を食べる野菜を根菜類といいます。根を食べる野菜は花が咲く前に収穫してしまい、いも類は地下に蓄えた養分で繁殖するので花を咲かせる必要がないのですが、条件によっては花が咲くことがあります。



ダイコン (アブラナ科)



ニンジン (セリ科)



サツマイモ (ヒルガオ科)



ジャガイモ (ナス科)



サトイモ (サトイモ科)



ゴボウ (キク科)



<春の舞岡の風景より>
冬に収穫できなかったコマツナが黄色い花を咲かせ、森にはヤマザクラが咲きます。



チョウの仲間

チョウ: 花の蜜を吸いに来たり、林縁を優雅に舞う姿は美しい。幼虫の姿は個性的なものも。

ガ: 昼間は木の葉や幹で翅を休める夜行性の種が多いですが、昼行性の種もいます。



アゲハ (アゲハチョウ科)



ナガサキアゲハ (アゲハチョウ科)



ジャコウアゲハ 幼虫 (アゲハチョウ科)



クサギの花を訪れる
モンキアゲハ (アゲハチョウ科)



モンシロチョウ (シロチョウ科)



スジグロシロチョウ (シロチョウ科)



ウラナミシジミ (シジミチョウ科)



ヒメアカタテハ (タテハチョウ科)



ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科)



ヒメジャノメ (タテハチョウ科)



キマダラセセリ (セセリチョウ科)



キスジホソマダラ (マダラガ科) 《昼行性》



マドガ (マドガ科) 《昼行性》



オオミズアオ (ヤマユガ科)



モンクロシャチホコ (シャチホコガ科)

カマキリの仲間

舞岡でよく見るのは4種類。木の上にはハラビロカマキリ、林縁や田んぼの脇ではオオカマキリやカマキリをよく見ます。



カマキリ (カマキリ科)



オオカマキリ (カマキリ科)



ハラビロカマキリ (カマキリ科)



コカマキリ (カマキリ科)

バッタの仲間

鳴き声が聞こえても、姿を見つけるのは簡単ではありません。そっと近づいて、声を頼りに探してみましょう。



ショウリョウバッタ (バッタ科)



ツチイナゴ (バッタ科)



コバネイナゴ (バッタ科)



オンブバッタ (オンブバッタ科)



メスアカフキバッタ (バッタ科)



クビキリギス (キリギリス科)



バッタの仲間が住む、道ばたの草地



ショウリョウバッタモドキ (バッタ科)



アオマツムシ (マツムシ科)



ヤブキリ (キリギリス科)



ササキリ (キリギリス科)

カメムシの仲間

カメムシは臭い? 害虫? でもよく見ると、ツノがあるカッコイイ種や、美しい色の種がいます。



ベッコウハゴロモ (ハゴロモ科)



アカハネナガウンカ (ハネナガウンカ科)



テングスケバ (テングスケバ科)



ニンジン花上で交尾する
アカスジカメムシ (カメムシ科)



オオツノカメムシ (ツノカメムシ科)



セスジナガカメムシ (マダラナガカメムシ科)



チャバネアオカメムシ (カメムシ科)



ナガメ (カメムシ科)

トンボの仲間

田んぼや水路の周りは、トンボの良い観察ポイント。大型のヤンマ類も、エサとなる小さな虫を探しにやって来ます。



ハグロトンボ (カワトンボ科)



ヤマサナエ (サナエトンボ科)



コオニヤンマ (サナエトンボ科)



シオヤトンボ (トンボ科)



シオカラトンボ (トンボ科)



オオシオカラトンボ (トンボ科)



ナツアカネ (トンボ科)



アキアカネ (トンボ科)



コノシメトンボ (トンボ科)



水田では、イネが成長するとトンボの姿も増えてくる



コシアキトンボ (トンボ科)

ハチの仲間

ハチには、花粉を運んだり、のうきょうがいちゅう農業害虫を食べる仲間がいて、大切な役目を持っています。でも、大型のスズメバチが自分の方に飛んできると、ドキッとしますよね。



キイロスズメバチ (スズメバチ科)



クロスズメバチ (スズメバチ科)



コアシナガバチ (スズメバチ科)



ムモンホソアシナガバチ (スズメバチ科)



キアシナガバチ (スズメバチ科)



セグロアシナガバチ (スズメバチ科)



ニホンミツバチ (ミツバチ科)



シロスジヒゲナガハナバチ (ミツバチ科)

甲虫の仲間

木の葉や茎、枯木、花、落ち葉の中、キノコ等、いろんな場所で食事している姿を観察できます。



トウキョウヒメハンミョウ (オサムシ科)



アオオサムシ (オサムシ科)



センチコガネ (センチコガネ科)



コアオハナムグリ (コガネムシ科)



シロテンハナムグリ (コガネムシ科)



ヤマトタマムシ (タマムシ科)



ナナホシテントウ (テントウムシ科)



ナミテントウ (テントウムシ科)



ヒメカメノコテントウ (テントウムシ科)



スギカミキリ (カミキリムシ科)



キマダラカミキリ (カミキリムシ科)



ヨツスジトラカミキリ (カミキリムシ科)



キボシカミキリ (カミキリムシ科)



ヤツボシハナカミキリ (カミキリムシ科)



ラミーカミキリ (カミキリムシ科)



キクスイカミキリ (カミキリムシ科)



リンゴカミキリ (カミキリムシ科)



クロウリハムシ (ハムシ科)



キボシツツハムシ (ハムシ科)



ジンガサハムシ (ハムシ科)



トホシオサゾウムシ (オサゾウムシ科)



オジロアシナガゾウムシ (ゾウムシ科)



いろんな昆虫が観察できる山林の縁辺部



舞岡のクモと自然 (クモのいる環境とクモ)

その姿形から嫌われることが多いクモ。でも、そのほとんどが害虫を捕食する益虫です。外では農作物を守る生物農薬の役割を果たし、屋内ではハエやゴキブリを食べてくれます。種類や生態は多様で、自ら出す糸で虫を捕らえるタイプから、巣を作らずに徘徊して虫を捕えるタイプまでさまざまです。

舞岡にも林縁や草地、建物などに適応したクモがいます。どのようなクモがどんな場所(環境)で見られるのか、里山で見られる代表的なクモ24種を紹介します。



家の中や周りにおけるクモ

| | | | |
|------------------------------|--------------------------------|--------------------------|-------------------------------|
| | | | |
| ヒラタグモ♀ (ヒラタグモ科) Ⓜ 建物の壁面など | オオヒメグモ♀ (ヒメグモ科) Ⓜ 建物や柵の周りなど | オニグモ♀ (コガネグモ科) Ⓜ 家の周り | アシダカグモ♀ (アシダカグモ科) Ⓜ 家の中や周り |

水路や水辺の近くにいるクモ

| | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| | |
| カタハリウズグモ♀ (ウズグモ科) Ⓜ 木や草の間、水辺の近く | ナガコガネグモ♀ (コガネグモ科) Ⓜ 水路や水田の近く |
| | |
| アシナガグモ♀ (アシナガグモ科) Ⓜ 水路の近くなど | オオシロカネグモ♀ (アシナガグモ科) Ⓜ 水辺の近く |

林縁などにいるクモ

| | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| | |
| ジョロウグモ♀ (ジョロウグモ科) Ⓜ 木や草の間 | ワキグロサツマノミダシ♀ (コガネグモ科) Ⓜ 草や葉の上など |
| | |
| ビジョオニグモ♀ (コガネグモ科) Ⓜ 木と木の間や葉の上 | イオウイロハシリグモ♀ (キシダグモ科) Ⓜ 草や葉の上 |

| | |
|-------------------------------|--------------------------------------|
| | |
| トリノフンダシ♀ (ナゲナワグモ科) Ⓜ 葉の裏など | キシノウエトタテグモ♀ (トタテグモ科) Ⓜ 崖地や大木の根元など |

草地・庭・生垣にいるクモ

| | |
|---|-----------------------------------|
| | |
| ウツキコモリグモ♀ (コモリグモ科) Ⓜ 草地や畑、畦 | クサグモ♀ (タナグモ科) Ⓜ 庭木や生垣 |
| | |
| ササグモ♀ (ササグモ科) Ⓜ 草や葉の上 | ゴミグモ♀ (コガネグモ科) Ⓜ 人工の柵や家の周りなど |
| | |
| [成虫のオスは別名 ホンチ] ネコハエトリ♂ (ハエトリグモ科) Ⓜ 庭木や生垣、草地 | マミジロハエトリ♂ (ハエトリグモ科) Ⓜ 庭木や生垣、草地 |
| | |
| アリグモ♂ (ハエトリグモ科) Ⓜ 葉の上や柵など | ワカバグモ♂ (カニグモ科) Ⓜ 草地の葉の上など |
| | |
| アズチグモ♀ (カニグモ科) Ⓜ 花の上や陰 | ハナグモ♀ (カニグモ科) Ⓜ 花の上や陰 |

※網のかたち Ⓜ=円形の網/Ⓜ=不規則な網/Ⓜ=網を張らない



舞岡ふるさと村の四季

(農作業と生物の関係カレンダー)

農家の人たちは、季節の移り変わりを判断して作物を育て、旬の味を提供します。
また、農地や野山に生活している動植物も、時期を選んで姿を現し、花を咲かせます。
舞岡ふるさと村を散策しながら、農の風景や生き物の変化を感じ取り、季節を満喫してください。

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 備考 |
|------------|----------------|----------------|---|---|---|--|-----------------|---------------------|----------------|----------------|-----|-------|--|
| 農作業と収穫時期 | | いちご狩り(2月中旬以降) | ジャガイモ植付 | 施設トマト収穫 | たけのこ掘り 浜なし開花 | ジャガイモ収穫 | 施設トマト収穫 | 浜なし収穫 稲開花 | 稲刈り | 稲刈り サツマイモ収穫 | | いちご直売 | 収穫期間 植付けや開花からの生育期間 |
| 木の花 草の花 | タチツボスミレ(4月) | キリ(5月) | キブシ タチツボスミレ ヤマザクラ ムラサキケマン ウラシマンウ ハナイカダ | キリ エゴノキ ウツギ クリ ホタルブクロ オカトラノオ ネジバナ アカメガシワ | カラスウリ ヤマユリ クサギ オモダカ | ヒガンバナ イヌタデ ミソソバ フユツタ | ヤブツバキ | ヤツデ ヤブツバキ(3月頃まで) | | | | | 平成28、29年の開花期を参考に作成しました。 |
| 昆虫たち | モンキチョウ(3~11月) | アオスジアゲハ(4~10月) | アゲハ モンキチョウ ツマキチョウ アオスジアゲハ ジャコウアゲハ | オオシオカラトンボ ヒメギス ヤブキリ | ナツアカネ ウスバキトンボ ショウジョウトンボ ハグロトンボ ニイニイゼミ ヒグラシ クマゼミ アブラゼミ ミンミンゼミ ツクツクボウシ | ニイニイゼミ ヒグラシ アブラゼミ ミンミンゼミ ツクツクボウシ | ニイニイゼミ アブラゼミ | | | | | | ● 初観察日 ●● 観察期間 (セミは、鳴き声を聞いた期間) 平成28、29年の観察結果を参考に作成しました。 |
| 舞岡八幡宮 | ● 初参り(1月1日~3日) | | 湯花神楽 | ● 例大祭 湯花神楽(4月15日) | ● 夏越祓 茅の輪くぐり(6月30日) | | | | ● 秋祭 英霊祭(秋分の日) | | | | |

第10章

MAIOKA
FURUSATO MURA

虹の家はこんなところ

【農体験イベントに参加しましょう】

虹の家は、舞岡の自然や歴史、農業、農村文化などを常設展示して紹介するほか、展示ホールでは植物・昆虫などの写真展なども開催しています。また、たけのご掘りやジャガイモ掘りなどの収穫体験の受付・案内も行っています。



●館内の常設展示の様子



●たけのご掘りの様子

【教室や散策会に参加しましょう】

虹の家では、年間を通じて、舞岡の地場産野菜を使った料理教室やそば打ち教室、パン作り教室、植物・昆虫観察会やふるさとの森散策会など、様々な教室を開催しています。ぜひご参加ください。ほとんどの教室が事前申し込み制となっています。(先着順、抽選のものあり)



●おもてなし料理教室



●夏の虫観察会

舞岡ふるさと村「虹の家」の問合せ先

〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町2832番地

TEL: 045-826-0700 FAX: 045-826-0749

URL: <http://www.maioka-nijinoie.jp/> メール: furusatomura@maioka-nijinoie.jpウェルカムセンターガイドブックはホームページからもダウンロードできます。 

【研修室や展示ホールは貸し出しています】

研修室（研修室A・B:各25人、調理実習室:24人）や展示ホールは有料でお貸ししています。グループや団体の会合、勉強会、研修、教室、写真展や絵画、手芸などの作品展等にご活用ください。



●「さつき展」の様子（研修室の貸出）

◆研修室・展示ホール等利用料 (H31.3.31時点)

| 貸出施設 | 期間・時間 | 使用料(延長料金) |
|----------|--------|---------------------------------|
| 研修室(A・B) | 2時間半まで | 1,000円(200円/30分) A・B、2部屋の利用可 |
| 調理室 | 2時間半まで | 4,000円(800円/30分) |
| 展示ホール | 1コーナー | 1週間 1,000円(150円/1日) |
| | 2コーナー | 1週間 1,500円(200円/1日) |

- ・利用時間午前9時～午後5時
- ・利用日の2か月前から先着順受付(電話予約可)
- ・利用時間や期間の延長は延長料金がかかります。利用料の支払方法、利用上の注意など詳しくはお問い合わせください。展示コーナーは早めにご相談ください。

【お気軽にご来館ください】

虹の家は、市営地下鉄舞岡駅から徒歩約5分。舞岡駅前の農産物直売所「舞岡や」や「ハム工房まいおか」もご利用ください。詳しくは「虹の家」ホームページをご覧ください。



●情報コーナー(ウェルカムセンター)の様子

◆虹の家概要

- ・開館時間：9時～17時(入館16時30分まで)
- ・休館日：火曜日(火曜日が祝日の場合翌平日)
12月29日～1月3日
- ・交通案内：市営地下鉄舞岡駅から徒歩5分
- ・駐車場：有(22台分)

◆農産物直売所(舞岡駅前すぐ)

- ・JA横浜「ハマっ子」直売所「舞岡や」 ☎045-824-0075
7時半～12時(土日祝14時)。火曜定休・年末年始休み
- ・ハム工房まいおか ☎045-822-5789
9時半～16時。火曜定休・年末年始休み。

舞岡ふるさと村「虹の家」開館20周年記念

ウェルカムセンターガイドブック 舞岡ふるさと村の「植物と昆虫」

発行日：平成30年3月(平成31年3月改訂)

発行：©横浜市環境創造局みどりアップ推進課

執筆・編集・写真提供：佐々木シゲ子 遠藤則男 堀内大盟 宮谷秀明 松本光正 虹の家

イラスト提供：松井奈穂



横浜みどりアップ 葉っぴー